

卵をめぐる祖父の戦争

デイヴィッド・ベニオフ著／田口俊樹訳

ハヤカワ文庫 900 円+税

主人公はマジメな童貞くん（17）、相棒はチャライイケメン。凸凹コンビが戦時下のソ連でありえない任務を押しつけられる。死ぬほど（←文字通り）寒くて空腹で、理不尽で悲惨な状況の中、パワー炸裂する2人の掛け合いにご注目！ パルチザンの射撃手がまた、ほれほれするほど……続きは本文でどうぞ。

第二次世界大戦／青春／冒険

古市真由美

星の王子さま

サン＝テグジュペリ著／倉橋由美子訳

文春文庫 470 円+税

ついに復刊が叶いました！ 名作家・倉橋由美子が「大人が読むための小説」のつもりで訳した『星の王子さま』です。王子さまの心のなかを旅する大きな、そしてとても切ない冒険譚。これまで知っていた小説とはちよっぴり味わいが違うかもしれません。「世界で一番美しく、一番悲しい風景」を、倉橋訳で是非お楽しみください。

ファンタジー／星／冒険

古屋美登里

風の影（上下）

カルロス・ルイス・サフォン著／木村裕美訳

集英社文庫 各 743 円+税

20 世紀半ばのスペイン・バルセロナ。「忘れられた本の墓場」で見つけた本の虜になった少年が、その作家の謎めいた過去を探るうちに、予想外の流れに巻き込まれ……というお話ですが、「忘れられた本の墓場」というワードだけでも本好きとしてぐっときませんか？ 物語の力にぐいぐい引っ張られて、迷宮じみた異世界にどっぷり浸れること請け合いです。

ミステリー／冒険／古書店

ヘレンハルメ美穂

野生のロボット

ピーター・ブラウン作・絵／前沢明枝訳

福音館書店 1,900 円+税

無人島に流れ着いたロボット・ロズは、親のない赤ちゃんガンの母親となって動物たちの信頼を得ていきます。助け合いながら厳しい環境を生き抜こうとするロズと動物たち。どんなことでも真摯に向き合うロズに心打たれます。イラストがいっぱいで、読むのが苦手でも大丈夫。最後は息をのむ展開に。読みだしたら止まりません。

AI／動物／家族のかたち／友情／希望／対話／冒険

前沢明枝

口のなかの小鳥たち

サマンタ・シュウェ布林著／松本健二訳

東宣出版 1,900 円+税

ひたすらに不穏、ひたすらに不気味。そこでは少女が小鳥を食べ、人魚男が「やあ」と挨拶する。ふだん歩く道にいつしか開いていた穴に、うっかり落っこちてしまったような不安な気分させられること請け合いの、大好きな幻想短編集です。

幻想／短編集

宮崎真紀

ネルーダ事件

ロベルト・アンブレロ著／宮崎真紀訳

ハヤカワ・ポケット・ミステリ 1,700 円+税

ノーベル賞詩人パブロ・ネルーダの依頼を受け、ある人物の消息を探しに行くことになった探偵カジェタノ・ブルルが、依頼主の底意に気づき、彼の女性遍歴をたどりつつ世界を旅する。『イル・ポストイーノ』などの印象の強いネルーダを脱神話化するような作品。面白いのは、ネルーダがカジェタノにメグレ警部シリーズの探偵小説を手渡し、これで探偵業を勉強しろと勧めていること。

ミステリー／歴史（近過去）／恋愛／政治

柳原孝敦

ベネVENTOの魔物たち 1 いたずらの季節

ジョン・ベームルマンス・マルシアーノ作／

ソフィー・ブラッコール絵／横山和江訳

偕成社 1,300 円+税

人間と魔物が共存する 1820 年代のイタリアのベネVENTOを舞台に、子どもたちが活躍する昔話風の物語です。シリーズ第 1 巻では、直感的に行動するローザと謎解きが好きな慎重派のエミリオという対照的な性格の双子のきょうだいが、魔物を追いはらうために奮闘します。ソフィー・ブラッコールの絵が文章と融合している楽しい作品です。

ファンタジー／冒険／昔話／楽しい

横山和江

夜ふけに読みたい 不思議なイギリスのおとぎ話

フローラ・アニー・スティー爾再話／アーサー・ラッカム挿絵／

吉澤康子、和爾桃子編訳

平凡社 1,900 円+税

おとぎ話とくれば、多くのみなさんは「もう知ってる」と思うでしょうが、この本を読めば、「え、そうだったの？」という結末に出会うこと請け合いです。有名な話から、あまり知られていない話まで、どれもちょっと不気味だったり、面白かったり、残酷だったり、あきれるばかりだったり。猫による目からうろこの楽しい案内付きです。

昔ばなし／ファンタジー／ホラー／猫

吉澤康子

はじめての海外文学



SPECIAL

2019. 10. 13

はじめての海外文学 オフィシャルサイト

<https://hajimetenokaigaibungaku.jimdo.com/>

Twitter @kaigaibungaku

チェコSF短編小説集

ヤロスラフ・オルシャ・Jr.編／平野清美編訳

平凡社ライブラリー 1,500円+税

現実をねじって、ひねって、引っ掻き回す。これこそ、「小説」の醍醐味というもの。しかも、中欧の小国チェコの歴史を背景にしたユーモアと皮肉がたっぷり。くすりと笑うか、にやりとするかはあなた次第！ 「もうひとつのSF」の姿がここにある。

SF／ファンタジー／チェコ

阿部賢一

完訳 オズのふしぎな国

ライマン・フランク・ボーム著／宮坂宏美訳

復刊ドットコム 1,800 円+税

だれもが読んだことがある『オズの魔法使い』。でも、オズの国の話はシリーズ化されていて、しかも 14 作に及ぶことはご存じでしょうか。この第 2 作『オズのふしぎな国』には、第 1 作をしのぐ個性的なキャラクターがたくさん出てきます。そして、シリーズの主役となるオズマ姫の登場の仕方といったら！ 作品のジャンルとして「ミステリー」を入れたのは冗談ではありません。読みはじめると思まらないオズ・シリーズの世界へようこそ！

ファンタジー／冒険／ミステリー／オズの魔法使いシリーズ

越前敏弥

小さい魔女

オトフリート＝プロイスラー作／大塚勇三訳

学研プラス 900 円+税

これは、まだ百二十七さいの、ひよっこ魔女の話。年にいちどの魔女のお祭りにでたくて、やんちゃな魔女は「いい魔女」になろうと決心します。ついついいたずらして、友達のカラスに注意されながらも、魔法の腕をあげ、やきグリ売りの風邪をなおし、森のたまご泥棒をこらしめる魔女。さて、今年のお祭りにでられるでしょうか？

魔女／コメディ／古典

おおつかのりこ

嵐をしずめたネコの歌

アントニア・バーバー著／おびかゆうこ訳

徳間書店 1,700 円+税

大嵐に見舞われ食べるものがなくなった村を救うため、年老いた漁師とその飼い猫が荒れ狂う海に命がけて挑む——イギリス南西部のコーンウォールに伝わる伝説をもとに創作された感動の物語。漁村の風景、漁師と猫の姿を丁寧に描いた細密画の挿絵が素晴らしい。飼い主を守ろうとする猫の健気さに胸が熱くなる。

伝説／イギリス／猫／海

おびかゆうこ

戦場のアリス

ケイト・クイン著／加藤洋子訳

ハーバーBOOKS 1,204 円+税

第一次大戦中に実在した女スパイたちの活躍を描く歴史スパイ小説。行方不明者を探して風光明媚なフランスを旅するロードノベルでもあり、女の友情と報われぬ愛が彩を添えています。本書の肝は、復讐を果たせば魂は救われるのか、という永遠のテーマです。秋の夜長、一気読み必至の一冊。

歴史／スパイ／女の友情

加藤洋子

ガルヴェイアスの犬

ジョゼ・ルイス・ペイシヨット著／木下真穂訳

新潮社 1,900 円+税

小さな国ポルトガルに実在する小さな村ガルヴェイアスの、奇妙で悲しい、でも明るさも残す物語です。本作によく出てくる言葉のひとつが「世界の終わりに」。綴られる数々の悲喜劇のそれぞれはささやかな物語ですが、読み終わるときにはひとつの世界の終焉、もしくは始まりが感じられるかもしれません。フィクション

木下真穂



カモメに飛ぶことを教えた猫 （改版）

ルイス・セプルベダ著/ 河野万里子訳

白水Uブックス 900 円+税

1998年の刊行以来、ロングセラーになっているこの物語が、今年、劇団四季のファミリーミュージカルになりました。いま全国で上演されています。四季の舞台はさすがのすばらしさ。でもこの本で、舞台とはちょっとだけちがうオリジナルストーリーのおもしろさと感動も、ぜひ！ 小学生読者のためにルビを大幅に増やしてあります。

ファンタジー／冒険／猫

河野万里子

あのごろ、天皇は神だった

ジュリー・オオツカ著／小竹由美子訳

フィルムアート社 2,300 円+税

日米開戦後、アメリカ西海岸在住の日系人たちは日常生活を奪われて強制収容された。米国籍を持つ子供たちまでもが。ある日系人一家を見舞う理不尽な運命を描く本書は、平易で淡々とした語り口から深い悲しみややり場のない怒りが滲みでる、心に刺さる物語だと思うのです。刺さったトゲについて、いろいろ考えていただければ嬉しいです。

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

赤い衝動

サンドラ・ブラウン著／林啓恵訳

集英社文庫 1,200 円+税

ワイルドなヒーローと健気な美貌のヒロインがその身に降りかかる危険をもとめせず、過去の大事件につながる真相究明に向けて奔走するロマンティックサスペンス。予測を裏切る展開、個性豊かな脇役たち、ホットな場面と読みどころは盛りだくさん。ロマンス小説初心者が初めて手に取る一冊にぴったりです。ロマンティックサスペンス／ロマサス／ホット／どんでん返し

小林さゆり

マッドジャーマンズ ドイツ移民物語

ビルギット・ヴァイエ著／山口侑紀訳

花伝社 1,800 円+税

「1979年以降、東ドイツには2万人のモザンビーク人が住んでいた」東独は1990年に西独に編入されて消滅するから、わずか10年の話だ。10年で2万人。おなじ社会主義の兄弟国へ、理想と豊かさを求めて移民した人々。彼、彼女らにはどんな運命が待っていたのだろう？ 三人の視点人物を通して活写されるその半生は「結びつきも、怒りもなく、文化のはざままで、ゆらめく」。

政治／歴史／グラフィックノベル

酒寄進一

移動都市

フィリップ・リーヴ著／安野玲訳

創元 SF 文庫 940 円+税

まず宮崎駿ファンに勧めたい！ なにしろ、スチームエンジンとキャタピラをとりつけた「都市」が大地を疾走し、空中都市の周りを飛行船が飛び回るのだ。舞台は、最終戦争後の荒れ果てた地球。乏しい資源を求め、都市同士が死闘を繰り広げる。そんな冒険活劇に、いくつもの深いテーマが埋め込まれているのも魅力。アイデアと完成度が一歩抜きんできた傑作！

アクション／SF／ファンタジー／冒険

三辺律子

原州通信

イ・ギホ著／清水知佐子訳

クオン 1,200 円+税

国民的作家と国民的小説をパロディー化した、愛と笑いと悲哀に満ちた短編。子どもの頃、ぼくの家近くの近くに引っ越してきた「先生」とは顔を合わせたこともなかったけれど、その「先生」のことで、とんでもない“事件”に巻き込まれます。実話を散りばめたオートフィクションですが、一体どこまでが本当なのか！ リアルな語りにも思わずはまってしまう。

清水知佐子

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

i レイチェル

キャス・ハンター著／芹澤恵訳

小学館文庫 1,100 円+税

愛する人が亡くなったあと、遺された家族のもとに亡き人そっくりのアンドロイドがやって来たら……？ という設定で描かれる、喪失と再生と成長の物語。慌ただしさやストレスで皺くちゃになった心に、さっとアイロンを当ててくれるような作品です。

AI（アンドロイド）／ごくごく柔らかないSF?／家族

芹澤恵

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

願いをかなえる呪文 (ザ・ランド・オブ・ストーリーズ 1)

クリス・コルファー著／田内志文訳

平凡社 1,800 円+税

有名なおとぎ話の「めでたしめでたし」の後の世界が描かれた、子供から大人まで楽しめるファンタジー小説シリーズ。ウィットと頭の回転の速さに恵まれた著者による、とことん温かいストーリーテリングに、心の底から癒やされてしまう人は少なくないはず。手に汗にぎる展開で一氣にこの厚さを読み切るのは、本当に快感。読書の楽しさがとことん味わえる一冊だと思う。

ファンタジー／冒険

田内志文

失われた時を求めて④

ブルースト著／高遠弘美訳

光文社古典新訳文庫 1,500円+税

語り手は架空のリゾート地バルベックへ祖母と赴きます。そこで知り合った海辺の少女たち、とりわけ、この先重要な役割を果たすアルベルチヌへの恋の発端が見事に描かれます。と同時に、架空の画家エルスチールとの交流を通じて、絵画藝術の神秘をも感得します。どの巻もそうなのですが、この巻も決して見逃せません。

高遠弘美

ガラガラヘビの味 アメリカ子ども詩集

アーサー・ピナード著／木坂涼編訳

岩波少年文庫 640円+税

ガラガラヘビってどんな味がするのでしょうかね。ここには、そんなおかしなタイトルの詩をはじめとする、「食べごろ」のアメリカの詩が62篇つまっています。有名な詩人ホイットマンの詩あり、先住民の唄あり。詩人のアーサー・ピナードさんと木坂涼さんが編んで訳したこの詩集、くすくす笑えて、たまにじんわりして……最高です！

詩／アメリカ／子ども

田中亜希子

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

僕には世界がふたつある

ニール・シャスタマン著／金原瑞人、西田佳子訳

集英社 2,200 円+税

奇妙な話でよくわからないままぐんぐん引き込まれる。主人公は友だちとゲーム作りに熱中する普通の少年。だが同時に海賊船で世界一の深淵を目指す冒険家でもある。船が深淵に近づくにつれ、現実と幻想の境界が曖昧になっていく。「あっちとこっちに同時に存在する感覚」に翻弄されつつ、見えてくる希望の光に安堵する。

ミステリー／ファンタジー／冒険

遠山明子

茶色の朝

フランク・パヴロフ著／ヴィンセント・ギャロ絵／藤本一勇訳

大月書店 1,000 円+税

「茶色の猫以外飼ってはダメ」というへんな法律ができてしまった。法律だから、仕方がない？ それでいいの？ やがて、犬が、新聞が…すべてが茶色になっていく。ホラー？ 寓話？ でも、どこにでも起こりそうなこと。

寓話／大人の絵本／コワイ話

永田千奈

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子



分別と多感

ジェイン・オースティン著／中野康司訳

ちくま文庫 1,500 円+税

大げさな言い方をすれば、小説、ドラマ、映画など、現代のほとんどすべてのラブロマンスの原型を作ったかもしれない、ジェイン・オースティンの傑作。『高慢と偏見』の方が取りあげられる機会は多いけれど、こちらにも注目してもらいたいです。エマ・トンプソン主演の映画「いつか晴れた日に」の原作。映画もあわせて是非。

ラブロマンス

夏目大

フランス短篇傑作選

リラダン、アポリネール、デュラス他 著／山田稔編訳

岩波文庫 920 円+税

フランスの短篇小説のアンソロジーとして、いま入手できるもののなかではもっとも優れたものではないだろうか。編者は慧眼というよりほかない。全力で推薦する。

文学／ファンタジー

西崎憲

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

政治／歴史／家族／日系人

小竹由美子

モルモット・オルガの物語

マイケル・ポンド作／おおつかのりこ訳

PHP 研究所 1,300 円+税

モルモットって自己中心的でこだわりが強くて、でもそこが逆に愛しく感じられる動物です。（モルモットを飼っている娘が、「オルガはうちの子にそっくり！」と証言。）オガクズ家にやってきた、夢見るオルガの語るお話の数々と、友達になった動物たちとのやりとり、そしてオルガの身に起きる意外な事件にきっとドキドキしますよ。

ファンタジー

野坂悦子

ブライアーヒルの秘密の馬

メガン・シェパード作／リーヴァイ・ピンフォールド絵／原田勝、澤田亜沙美訳

小峰書店 2,000 円+税

第二次大戦中のイギリス。結核療養所で暮らす少女エマは、鏡の中に翼のある馬を見ます。やがて隣接する庭園の中に舞いおりた馬との交流が始まり……。悪化していく病状、迫る戦火、忘れてしまいたい家族の悲劇、隻腕の若者トマス……。どこまでが現実で、どこまでがエマの夢想なのか。結末の解釈はあなた次第！

ファンタジー／挿絵入り

原田勝